



福祉と住環境を考える

ふくてっく

559-0034 大阪市住之江区南港北 2-1-10 ATC・ITM 棟 11F エイブルスL
 TEL 06-6614-6800
 npo-fukutech@mail.goo.ne.jp http://npo-fukutech.blog.eonet.jp/

2009年6月
 第76号

特定非営利活動法人
 ふくてっく

こむねっと部会

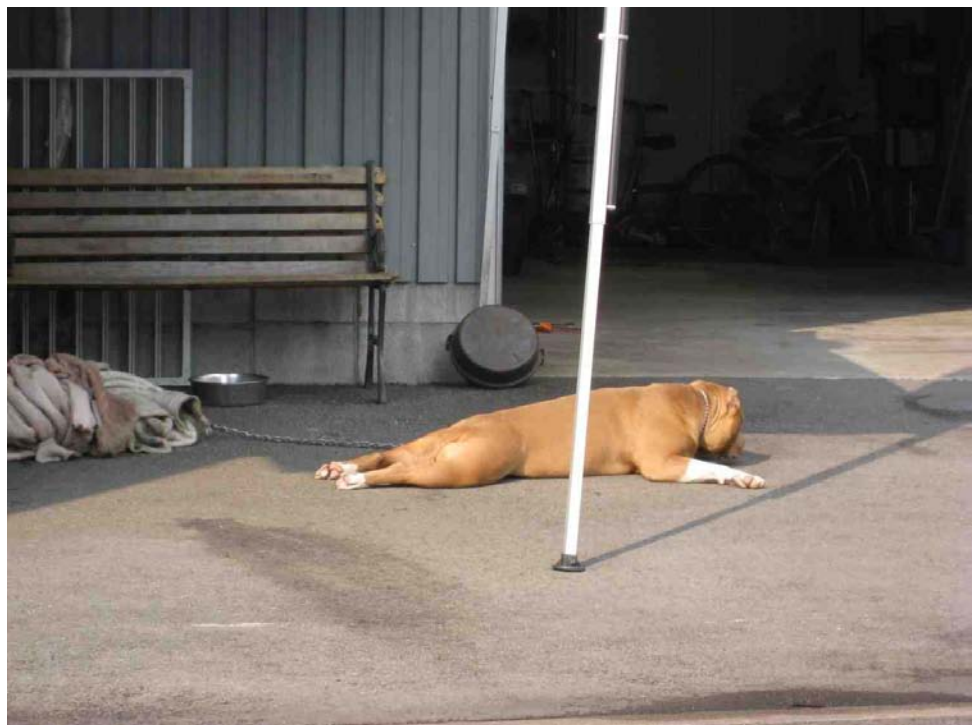
今回は、「世話」「世話役」ということを考えてみました。こむねっと部会と、何の関係があるの？ それはやがて判ります。

世話をする、とか世話が焼ける、大きなお世話だ、等と言いますが、「世話」とは一体何でしょうか。「世話をする」は、力を貸して「面倒」をみること、大きな「お世話」だけは、余計な「おせっかい」だ、世話が焼けるは、「手がかかる」という意味だとされています。「世話がない」は、「手数」がかからない、あるいは「処置」なしだ。「世話になる」は「援助」を受ける、ということです。

すなわち。「世話」は、「面倒」「おせっかい」「手数」「援助」などの意味に使われています。方言では、津軽と但馬方面で「へわ」という言葉があり、同じく「世話」の意に使われますが、本来は、釜やご飯などにつく「黒いすす」のことだそうです。「黒いすす」がなんで「世話」なのか、意味深長です。一見、やっかいなものでも、実は、飯の味わいをつくる大事な要素、あるいは、このおかげでご飯が守られる、という気持ちでしょうか。

東京の方言では、かばって世話をするを「かたをいれる」といいます。「世話ない」は、高松の方言で「造作もない」「世話をかける必要がない」ということです。大阪でも「世話ない」は「手間がかからない」の意を含み、転じて、「苦勞しない」「困らない」となります。「散髪やいうても、お父ちゃん、勝手に毛え抜けんねんから世話ないわ」というふうです。

ところが、この「世話」意外に歴史が古い。「世話」は、その字のごとく「世間でよく言われる言いぐさ」「世俗の人が用いる話し言葉のこと」が本来の意味で、「世間の人の話」が原義です。転じて、「日常的なもの」「通俗的なもの」の意味となり、「世話物」



「世話場」という言葉が生まれました。「下世話」という言葉に、「世話」本来の意味がよく残されています。

歌舞伎の様式に「時代」と「世話」があり、大まかに言えば「時代」は様式で、「世話」は写実ということになります。「時代」はゆっくりこったり、「世話」はあっさりさっぱりとも言えます。歌舞伎はこのふたつの様式の配合と色合いと変化の妙に演技の面白さがあるとされています。ここまで進めると、「世話」が現代に使われている意味とずいぶん違うことが判ります。歌舞伎の業界用語で「世話場」とは、「生活感」があり、「汚れ」のある場を言います。

ところが、江戸時代からは、面倒を見る意味で「世話」が用いられるようになった。江戸末期の文献には、「だれがおまえはんの病気の世話をしますえ」とあるが、この「世話」は「せわしい」の「せわ」の下略と言われており、「世話」は当て字です。「せわしい」は、本来、古語の「せはし」、その語源は「狭し(せばし)」現代の「せまい」と同義です。ちなみに「せわしなし」は「せわしい」の語幹に、強調の接尾語「なし」がついたもので、これが現代の口語では「せわしない」になりました。この「なし」「ない」は強調であって、決して否定ではありません。「せわしない」は「世話をしない」ということではないのです。同様に、打ち消しではなく意味を強める「ない」がついた言葉に、「いとけない」「はしたない」「滅相もない」「切ない」などがあります。

「せわしい」は江戸中期になると、形容動詞として「やっかいなさま」「面倒なさま」を表すようになり、江戸末期には「世話が焼ける」という句も見られるようになりました。その流れが、現代に至って、「面倒」や「手間」「おせっかい」になり、果ては「忙しい(せわしい)」「落ち着かない」ともごっちゃになってしまいました。

ところで、こむねっと部会ですが、第2期こむねっと部会が5年期限でスタートして、早一年が過ぎました。とりあえず5年は部会長を務めさせていただきますが、この部会長とうのが、なんなのか。会社で言えばCEO? でも、NPOというのは、また小難しく、フラットな組織とかいって、そのリーダーはいわゆる「世話役」とされています。

さて、この「世話」はどんな「世話」?

生活感(現実問題に関わって清濁併せのむ)センス?(建前と本音世話役使い分け)

とにかくまとめ役?(世話人の気配りよくて座がなごむ)

ボランティア精神?(世話をしてよかった今日は日本晴れ)

やがて我が身にふり返る?(そのうちに世話される日が来る老後)

まゝとりあえず何でもこなす?(じょさいないその世話好きを見込まれる)

結局ひとりでもまとめる必要?(世話やきが多くて話まとまらぬ)

功労者だからたてられる?(長老を世話役にして無事終わる)

口はほどほどに(一言居士だから世話役嫌われる)

やっぱりせわしくて家族には不評(世話役を引き受け妻に叱られる)

そのうち辞めるといふけれど(肩書きが解けて世話好きもの足りず)

さて、これからのこむねっと、いかが相成りますものか?

(中北 清)

東大阪部会 活動報告 21年度への抱負

活動のきっかけは、今までは単なるリフォーム費用の補てんに助成金を使われたり、老朽化の建物を新しくする為に使われたり、中には驚かされる様な工事まで助成金を使われていたので、本来必要とされる方たちに的確に使われていなかったのを「なんとかせなあかん！」と感じたので市に抗議した事で、NPOふくてっくが引き受ける破目？になったのでした。

■この3年間、色々な思いでメンバーは頑張ってきましたよ！

雨の日も風の日も、真夏の暑い日も、雪の降る日も、自転車で走りまわったり、バスを乗り継いだりしてね！また、利用者に勘違いされて、門前払いをくらったりと、中に入るまでに結構苦労したものでした。

書類審査や窓口の判断では、我々の思いとは違った所で理不尽な動きがあり矛盾を感じた事も多々ありましたが、現場では我々の活動を好意に受けてもらい、適正なアドバイスでたいへん喜んでもらえる事が多かったのが、はげみになりました。

そのこの喜びがあるから続けられると思います！

■我々の活動の趣旨は、決して単なる行政の制度を運用する手下ではなく、さらに重箱の隅をつつくようなことはせず、さりとて無駄な利用申請や、間違った使い方には断固として立ち向かい、同時に制度の認知や市民啓発など血の通った対応がモットーです。

すなわち「熱意！」・・・ほんまかいな～？、ホンマやで！

■と言う事で東大阪部のメンバーは以下の事を目標に行動しています。

1・第三者性を保ちつつ公正中立な立場で

バリアフリー化の住宅改造の計画と、完成状況の検証と、工事費の適正査定・アドバイスを行う。

2・利用者や業者の負担軽減を配慮しつつ、申請手続きの厳格化と迅速化の見直しを行う。

3・福祉住環境のマインドのある地元の小規模施工業者にも、分かり易く利用してもらう為の、手助けやスキルアップの研修などの協力を行う。

4・検証活動を通じて、データーの収集と分析を行い、制度の改革や施策提言に結びつける。

■21年度は以下の具体的な活動にも力を入れて行きたいと考えています。

A・ケアマネを対象に、申請に使用する図面の読み方・見積書の読み方、更には簡単な図面の表現のしかたなど、2～3回に別けて研修会を催したい。

B・施工業者にも同様の研修会を催し、研修を受けた業者に対しての利点とした「施工業者登録制」を再度市に要望したい。

C・市民啓発としては、地元のコミュニティ関連(例えば民生委員や自治会や地元の介護事業所)との連携で、この制度を正しく周知してもらえるような企画を考えていきたい。

■最後に、3年間はあっという間に過ぎてしまいました。幸いにして東大阪市は助成金の制度が残されました。そして我々の活動にも継続委託契約をされ4年目に入ります。これほどのマインドと技術を持ったNPO法人で、行政と協働できる団体は他に類を見ないと自負しています。今後も形は変われど、このような社会貢献は続けていく意義があることだと大いに感じています。ふくてっくの活動は、いろいろな意味で他に誇れる活動だと思っています。今年度もメンバーともども頑張ってくださいるので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。
(磯田 吉郎)



東大阪部会活動メンバーです。4月から13名で行っています。新規に大橋さんが加わりましたのでご紹介します。(後列左から2人目)

【自己紹介】私は、東大阪の東の端、石切で設計事務所を営んでおります。建築士東大阪の会で活動させて頂いておりますが、その会のメンバーである磯田会員、川北会員、池淵会員がふくてっく東大阪部会で活躍されており、入会を誘って頂きました。

今まで青少年指導員他社会教育部門(青少年健全育成)方面でのボランティアの経験はありましたが、福祉ボランティアは初めての経験であり、少し敷居が高い感じがしておりました。ふくてっくの本会を見学させて頂いた際、皆様の活発に活動されているご様子、また、多彩なキャラクターに魅力を感じ、即入会を決意した次第です。当面は東大阪部会で活動させて頂きたいと思っております。何卒ご指導の程、宜しくお願い致します。(大橋 延行)

東大阪の風景をご紹介します



東大阪は、河内平野のほぼ中部に位置し、生駒山の裾野に広がる、人口約51万5千人の都市です。写真中央で、一番高くそびえているのが市役所(本庁)で、前方には、高校生ラグーマンの憧れである、花園ラグビー場も望めます。(大橋 延行)



春の恩智川(池淵 皇代)



市役所玄関前のオブジェ(磯田 吉郎)

福祉用具部会

福祉用具部会の活動項目において、福祉用具を含む介護（福祉）関連知識を得、ステップアップするため、月に 1 度勉強会、検討会を計画しています。

ゆめ風基金・NPO おおさか行動する障がい者応援センターから、家具の転倒防止施工の依頼があり検討しました。

地震で家具が転倒すれば、下敷き・避難通路の障害となり命をおとす事もあります。家具・天井・壁の強度構造を考え、取付ネジ穴で家具・天井・壁に傷をつけないような市販の転倒防止具を選定します。依頼者の要望を聞いて取付けました。

家具と天井間のスキマが大きい時は、右のようなふくてつく自作の木製箱を作りました。 (古場 道夫)



住宅改修部会

今年度の改修依頼件数はとうとう 2 件でおわろうとしています。1999 年から住宅改修部幹事を務めさせて頂いてから、最も少ない件数でした。バリアフリー化された住宅は、まだまだ普及されているとは言い難いのが現状かと思いますが、件数激減の理由は次の 3 点かと考えます。

主な紹介先の「NPO やわらぎ」さんの関わる住宅の改修ニーズが、ほぼ満たされてきたこと。二つ目は不況により、自己負担の 1 割が払えない家庭が増えたこと。（大阪市は全国の生活保護者の 10% を占めます）もう一つは営業（宣伝、アピール）努力が足らなかったこと。

建設業そのものが、特に昨年秋から大不況に陥り、今年 3 月において、関西の設計事務所の 3 割が消えたそうです。現存する事務所も多くは開店休業状態です。設計物件が激減ということは、今後、新規工事が発生しないということです。日本の場合、全労働者の 1 割を占める建設関連業はますます冷え込み、不況はより深刻になることが予想されます。

今、政府はいろんな景気対策を打ちたてつつありますが、焼け石に水にしか思えません。

五木寛之氏の「人間の覚悟」という本に次のようなことが書かれています。

「戦後 60 年を振り返ってみても、最悪の時代がこれから『来るぞ、来るぞ』ではなく、今『来てしまった』のです。……歴史を見ればわかるように、時代の流れはそうやって何十年かおきに坂を上がったり下ったりするものです。全てが移り変わっていくなかで、人は『坂の下の雲』を眺め、谷底の地獄を見つめなければならない時がある。だから『覚悟』が要るのです。……」

金持ちがますます富裕になる今までの資本主義は崩壊するでしょう。

簡単にはできないと思われませんが、「共生社会」の実現を望みます。

つづきは次回の広報に書きます。

(畑 俊治)

木工部会

音を奏でる木工品づくりに熱！

木工部は昨年より音を奏でる木工品づくりを始めました。

木工部だから「木」にこだわるのは当然、でも音をだすには・・・思考錯誤？インターネットを開きながら「竹」を発見、結果「カリンバ」の楽器を作り始めました。

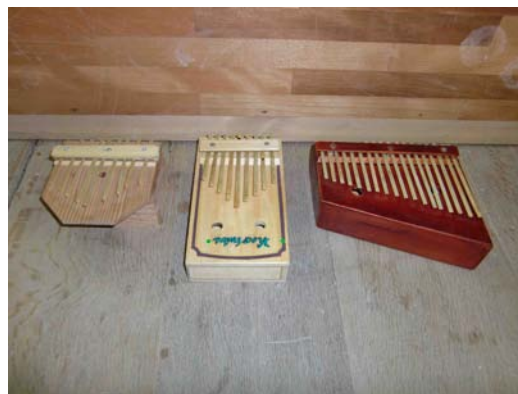
「カリンバ」

主にアフリカでみられる楽器で、共鳴箱の上に金属や竹などの棒（キイと呼ぶ）をはじいて音をだす楽器。キイの本数、並び方、共鳴箱の材料、形は様々であり左右の親指で弾く。この楽器の呼び名は国や地方によって様々である。

昨年（2008年）ふくてっく木工部も子どもたちへの木工教室での題材として取り上げ、多くの子どもたちに喜んでいただきました。



【最初の作品】



【各部員が作ったカリンバ】

「キンダーハープ」

新しく今年（2009年）挑戦の音を奏でる木工品は・・・「キンダーハープ」

幼児のために考え出された弦楽器。耳を澄ませば澄ますほど心に届く優しい音を響かせてくれます。幼児期の音体験を豊かで楽しいものにしてくれます。宮崎駿監督の「千と千尋の神隠し」のテーマソングで話題になりました。



【いろんなタイプを作りました】



【子ども木工教室での提案品】

これからもどしどし新しい作品を提案する木工部として活動してまいります。さて、今度のキンダーハープは子どもに喜んでもらえるだろうか？

（西川 朋生）

研修部会・福祉用具部会合同企画

川村義肢 工場&ショールーム
見学ツアーの報告

4月8日(水)12時45分にJR住道駅改札口に集合し、川村義肢株式会社の工場&ショールームに向かいました。参加者は11名でした。



到着してから暫くの間1階ショールームを見学していましたが、その後担当の国広さんに案内されて会議室に向かい、荷物を置いてから歴史展示室に移動。ここには昔使われていた竹製の義足や桐箱に入って保存されている「恩賜の義足」、目的に合わせて作られた様々な義手などが展示されています。義肢の歴史について展示を見ながら説明を聞きました。



次に義肢装具の製作が行われている3階へ移動。国広さんから説明を聞きながら、義足を手にとってみます。重いのに少し驚きましたが、「実際の足はもっと重いです」と言われて納得。人の足を持ったら重いけれど、自分の足は身体の一部なので重さは感じていないのですね。製作の殆どは手作業だそうで、いろいろな体幹や足の型に向かって多くのスタッフが作業をされていました。スポーツ選手用の義肢のサンプルや、義足を付けたワンちゃんの写真もありました。下肢装具は要望に応じてデザインを施してもらえらしく、大阪ならではの豹柄もあるようです。



それから2階へ。車いすの修理改造をしているところでは、数多くの調整前の車いすが並んでいましたが、一つとして同じ車いすはありませんでした。



コルセットや規格品のコーナーを見学後1階に降り、採型室を経由して到着した中庭は、義足や装具を装着して歩行訓練ができるように、屋外の様々な条件を想定した造りになっていました。実際の陸上競技場と同じような70mの走行レーンも併設しています。

工場見学はここまで。会議室に戻り福祉用具開発担当者から、下肢装具や入浴補助用具の製品開発に関する考え方や経緯について、動きを交えながらの説明を伺いました。最後に玄関前で記念撮影をしてから近くの公園へ移動し、軽くお花見をしてから解散となりました。



義肢や装具の製作は、もっと機械化されていると思っていましたが、意外とアナログだったので少し驚きました。でも一人ひとりの身体にきちんと合うものを造る際に必要になる微調整は、やはり人の手に勝るものはないのかもしれない。工場内部の雰囲気や開発担当者の商品開発にける心意気に触れたあとのビールは、満開の桜も手伝って非常に美味しかったですね。

[研修部会：山本尚子]